

学校法人真宗大谷学園
九州大谷短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

九州大谷短期大学の概要

設置者	学校法人 真宗大谷学園
理事長名	熊谷 宗恵
学長名	大江 憲成
A L O	三明 智彰
開設年月日	昭和45年4月1日
所在地	福岡県筑後市蔵数字大谷495番1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
仏教学科		10
表現学科		50
幼児教育学科		100
福祉学科		50
	合計	210

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	30
	合計	30

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

九州大谷短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成21年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年7月12日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の建学の精神は仏教、なかんずく宗祖親鸞聖人の開顕された浄土真宗としており、これを「本学の願い」として「人生の主体者になる」、「共に歴史と世界を生きる」、「問いを学ぶ」と3項目に具体的に表現しており、「御命日勤行」「報恩講」などの全学行事を通して建学の精神を学生・教職員に浸透させている。

教育課程は体系的に編成されており、特に基礎科目（「人間の基礎」、「生活の基礎」）が建学の精神の理念で貫かれている点が特徴的といえる。また、学生のニーズに多様にこたえる教育課程が提供され、学習成果をあげる様々な学生指導を行っている

教育環境も整備されており、特に図書館、演劇放送館、介護関係の棟については、その環境は整っている。また、教育目標への到達が困難と予想される学生に対して丁寧な個人指導がされており、基礎科目による教育が学生の達成欲求を高めている。

学生支援に関しては、建学の精神・教育の理念となる「本学の願い」を根幹として、志願者や入学予定者へのオリエンテーションだけでなく、入学後の学生生活支援にも積極的に取り組んでいる。就職率はおおむね良好である。また、演劇などの就職の難しい領域でも卒業後も支援できる体制を整えている。

研究業績の数は、学生の学習支援と生活支援の負担が大きいこともあり、やや少ないが、研究活動を行うための条件もおおむね整備されている。

平成12年度に開設した生涯学習センターは地域のカルチャーセンターとして定評を得ており、多様な講座内容によって多くの受講生を集めている。また筑後市のホール「サザンクス筑後」と連携して演劇作品の上演などを行う共同文化事業、毎年開催される幼教フェスタと福祉フェア、幼児教育・児童福祉学会など、教員と学生とが一丸となって学習・研究成果を地域に発信している。

管理運営に関しては、複数の教育機関を持つ学校法人であるので、機動的に意思決定を行う機関として常務理事会を設置しており有効に機能している。

学校法人及び当該短期大学の財務運営は適切に行われている。中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算の決定は、確立された制度のもとで適切にされており、適正に執

行されている。また、平成 18 年度に「開学 40 周年・宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌記念事業推進室」を組織し、平成 22 年度に迎える開学 40 周年記念事業に向け、施設・設備の充実を計画している。

自己点検・評価活動は、学則にのっとり組織的に実行されている。評価結果を改革・改善につなげる仕組みとして、「全学研修会」を活用し、具体的な行動へとつなげている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「御命日勤行」を毎月実施し、必修科目と関連付けて学生の参加を義務付けている。
- 「全学研修会」を毎年春と秋の 2 回実施し、全教職員が参加して教育上の問題点の発見、課題の確認と今後の展開などについて協議し、建学の精神・教育目標についても点検・確認を行っている。学寮においては、建学の精神に基づく生活指導が行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 介護関係の棟は、介護実習、福祉に関する概念の学習、談話の場として、優れた環境が提供されている。表現学科演劇放送フィールドの学生が活用する施設は、各々の教科学習に適応する環境が整備され、実演可能な劇場も整備されている。また、図書館内に設けられた「心の保健室」コーナーは、日常的に利用されており、当該短期大学の特長といえる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職先からの評価をアンケートにより調査している。量的にも十分であり、質問事項も妥当で、評価も高いことがうかがえた。
- 表現学科演劇放送フィールドの卒業生で、経済的事情により東京での演劇活動を制限されている学生に対して、その受け皿として「シニア劇団」を結成し教育している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学術・芸術・社会・体育・文化などの領域における表彰制度を設けており、学生の学習意欲の高揚につなげている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 平成 12 年度に開設した生涯学習センターが当該短期大学の知的資源を始めとする様々な講座を開設し、地域にも定評を得て多数の受講者を迎え入れている。
- 学生の学習成果を地域に還元する取り組みが複数されている。とりわけ演劇放送フィールドは筑後市のホール「サザンクス筑後」と連携し、地域文化の振興に大きな役割を果たしている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 表現学科の二つのフィールド（演劇放送フィールド・情報司書フィールド）間の共通性が希薄であるので、学科としての一体性を保つことが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究条件の整備に関して担当授業コマ数の多い教員の負担の軽減、科学研究費補助金を含む外部資金の情報を提供する体制の整備と獲得への試み、芸術的活動などを研究業績に準じて評価するなどの業績を評価する基準の周知、学内外の共同研究の推進、学内での研究状況報告会などへの取り組みを検討されたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人は毎会計年度終了後 2 ヶ月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書、監査報告書を各事務所に備えて置き、閲覧に供することを必要とする。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育目的は明確に定められており、「御命日勤行」「報恩講」などの全学行事を通して建学の精神を学生・教職員に浸透させている。

また、教育目的の点検は定期的に行われる「全学研修会」を活用する仕組みが整えられている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は体系的に編成されている。特に基礎科目が建学の精神の理念で貫かれている点特徴的といえる。また、学生のニーズに多様にこたえる教育課程が提供されている。授業内容、教育方法、評価に関して、授業要覧（シラバス）などにより学生に明示されている。さらに、個々に特長のある教育が展開されており、学生は充実した学習状況にあるといえる。ただし、表現学科の二つのフィールド（演劇放送フィールド・情報司書フィールド）間の共通性が希薄である。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織、短期大学の教員たる研究業績については基準を満たしている。また、学習成果をあげる様々な学生指導を行っており、教育環境も整備されている。特に、図書館、演劇放送館、介護関係の棟については、その環境は整っている。ただし、教員の昇格に関する規程に具体性が不足しており、今後検討が必要と思われる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標達成へ努力がみられ、到達が困難と予想される学生に対しては丁寧な個人指導がされており、基礎科目による教育が学生の達成欲求を高めている。また、就職先へのアンケート調査が積極的に実施されており、高い評価を得ている。ただし、卒業生に対するアンケート調査の実施については検討課題と認識されているので、近々に実施されることが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

建学の精神・教育の理念となる「本学の願い」を根幹として、志願者や入学予定者へのオリエンテーションだけでなく、入学後の学生生活支援にも積極的に取り組んでいる。

学生の学習支援・学生生活支援の体制も整っており、近年の学生の変化に合わせて新たな取り組みを行おうとする姿勢もうかがえ、整備計画も進められている。

就職率はおおむね良好であり、就職の困難な領域でも卒業後も支援できる体制を整えている。

評価領域Ⅵ 研究

研究実績（著作、論文、学会などでの発表、その他）の数は、学生の学習支援と生活支援の負担が大きいこともあり、過去3年間で1人あたり平均1.75件でやや少ないが、研究活動を行うための条件もおおむね整備されている。今後の研究活動の活性化が期待される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

建学の精神にのっとり、様々な社会的活動の取り組みがなされている。独立採算によって運営される生涯学習センターは地域のカルチャーセンターとして定評を得ており、多様な講座内容によって多くの受講生を集めている。また筑後市のホール「サザンクス筑後」と連携して演劇の上演などを行う共同文化事業、毎年開催される幼教フェスタと福祉フェア、幼児教育・児童福祉学会など、教員と学生とが一丸となって学習・研究成果を地域に発信している。学生のボランティア活動も学科の特色を生かして展開されている。

地域の高等学校を招いたバレーボール・バスケットボール招待親善試合やその他の高大連携活動にも積極的に取り組んでいる。

教員個々人の国際的活動はされているが、学生の留学なども含め国際交流活動については今後の展開に期待する。

評価領域Ⅷ 管理運営

複数の教育機関を持つ学校法人として、機動的に意思決定を行う機関として、常務理事会を設置しており有効に機能している。教授会の運営は学長のリーダーシップの下で毎月

1 回以上開催されている。

事務局管理職の一部を教員が兼務しており、教員と事務組織の連携という点では目下のところ有効であるが、課題もあり、更に検討を要する。人事管理は規程に基づき適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人及び短期大学の財務運営は適切に行われている。中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算の決定は、確立された制度の下で適切にされており、適正に執行されている。学校法人全体及び短期大学部門の収支バランスは収入超過であり、財務体質は健全である。しかしながら、財務情報の公開については私立学校法の規定に基づいて改善されることが望まれる。

短期大学に必要な施設・設備は整備されており、維持管理するための管理規程や各種台帳も整備され適切な管理がされている。また、平成 18 年度に「開学 40 周年・宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌記念事業推進室」を組織し、平成 22 年度に迎える開学 40 周年記念事業に向け、施設・設備の充実に計画している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は報告書として印刷物にまとめられ、学内のほか、学校関係者、文部科学省、真宗大谷派学校連合会加盟校、本協会など 150 機関に送付されている。

評価結果を改革・改善につなげる仕組みとして、年に 2 回開催される「全学研修会」を活用し、全教職員の参加を得て協議し、具体的な行動へとつなげている。